



◀ いろいろなお母さんコーラスと参加者が村民歌を歌いました



▲ 斎藤京子さんやHiBiKiさんはものまねで参加者を楽しませました(写真左がHiBiKiさん)



◀ 会場には託児所も設けられました



2/12 村民相互の絆を深める  
**いいたて村民ふれあい集会を開催**

**【参加者の感想】**



**林良男さん・善美さんご夫妻**  
 夫婦で来ました。今は松川の仮設住宅に避難しています。今日はしばらく会えなかった人にも会えてよかったです。



**菅野稔久さんご一家**  
 久しぶりにいろんな人と会えて楽しかったです。3人の子どもたちは12歳、2歳、0歳。生後5カ月のこの子は避難先の福島市で生まれました。



**高橋祐明さんご一家**  
 川俣に避難しています。子どもは久しぶりの友だちに会えて、汗をかいて遊んでいました。こうして集まれる機会があるといいですね。



◀ 村職員による復興計画、除染計画の説明のようす

「いいたて村民ふれあい集会」が福島市飯坂町のパルセイりいざかで開催され、村民およそ1,100人が参加しました。

この催しは、計画的避難区域となり、生活拠点がばらばらになった村民が、安否を確かめ合い、お互いの絆を深めることを目的として、村と行政区長会で構成するまでいな絆実行人委員会(菅野啓一委員長)が主催し開催されました。

今回の集会は、村民だけでなく運営や物資

の提供に、企業や福島大学の学生、小児科医などで構成されたNPO法人など、たくさんの方の協力を得ています。

あいさつでは菅野委員長と村長が「今日は一日コミュニケーションを大切に過ごしてください」「この集会を復興元年のスタートとしましょう。力を合わせて村をもう一度戻れるふるさとにしたいです」とそれぞれあいさつしました。

会場では、災害救援見舞金の支給が行われ



▲ 10大ニュースで金賞を受賞した細川きみ子さん(上飯樋)。賞品のブルーレイレコーダーで入院しているお母さんに大好きな歌番組をたくさん録画してあげたいとのことでした

たほか、復興計画の説明や村の10大ニュースの発表が行われました。また、昼食をはさんでアトラクションとしてものまねショーなどが行われ、ものまね芸人の斎藤京子さんとHiBiKiさんが来場者を楽しませました。

アトラクション終了後にお母さんコーラスと参加者が一緒に村民歌を歌いました。

会場のあちこちではお互いの再会を喜びあう姿が見られ、参加者たちの交流も深まったようすでした。



▶ 会場では昼食や飲み物も出されました

平成23年(2011年)		村の10大ニュース結果	(投票総数：696票)
1	3月11日	東日本大震災発生。電気、電話、水道など村内ライフラインが断絶	665票
2	3月12日～15日	東京電力福島第一原子力発電所1～4号機が次々に爆発。放射性物質が村にも降り注ぐ	650票
3	4月22日	政府が村を計画的避難区域に設定	640票
4	6月6日	村公民館前駐車場でいいたて全村民見守り隊出発式を挙行。約400人の隊員が当日から村内の防犯パトロールを開始	374票
5	6月22日	村役場機能を飯野出張所に移転。飯野出張所前の駐車場で開所式を挙行	331票
6	3月19日～4月30日	栃木県鹿沼市の協力により、鹿沼市総合体育館に避難所を開設。3月19日・20日の2日間で509人が避難	327票
7	9月12日	福島市飯坂地内に「いやしの宿いいたて」が開所。12月14日現在、延べ4,800人が利用	290票
8	4月12日	第8回村議会事故災害特別委員会を開催。村、JA、農業委員会と協議し今年の農作物作付け見送りを決定	227票
9	12月6日～18日	国の除染事業の拠点とするために、自衛隊が村役場本庁舎敷地内を除染	219票
10	5月15日	計画的避難に伴う第1団が離村。10世帯64人が吉倉公務員宿舎、飯坂温泉赤川屋などに避難	200票

2/27

### 飯館村復興計画推進委員会を開催



▲委嘱状交付のようす

諮問されました。村がたたき台として提案した復興スマート・ビレッジ計画構想では、除染作業を行い、放射線量を低くした村の土地に、村民が行政区ごとに生活できる住宅を建設することを柱としています。会に出席した委員からは、「原発が未だ不安定

な状況にある中で、検討を始めるにはまだ時期が早いのではないかと「村に戻る場合には高齢者が中心になるのではないかと。若い人たちが帰村するにはまだハードルが高い。かといって高齢者だけで生活していくのも大変ではないか」「帰村はできないと考えている村民も、たまには帰れるという仕組みづくりも必要で

はないか」など課題や意見が出されました。委員会は諮問された計画策定について議論を重ね、順次村に対する中間答申する予定です。村では「この計画は村民の帰村や移住を強制するものではない。一人ひとりの事情に合わせるための選択肢のひとつとして議論してほしい」としています。



▶ 視察のようす

いいたてまでいな復興計画推進委員会が飯野出張所で開かれ委員に村長が委嘱状を交付しました。委員会は村長が諮問するいいたてまでいな復興計画を推進する施策を検討するために設置されたもので、大学教授などの有識者をアドバイザーに、村民の代表、村議員、村職員らで構成されています。委員会には村から「いいたて版 復興スマート・ビレッジ計画」の策定が

**村が提案した復興スマート・ビレッジ計画の概要**  
 村内の比較的線量が低い地域に**帰村希望者**が出身地域ごとにまとまって居住でき、エネルギー自立も実現した「いいたて版スマート・ビレッジ」を整備し、復興の拠点とする。

**スマート・ビレッジ計画の目標**

- 徹底した除染と健康管理で子どもも安心して住める村にする。
- 避難で散々になった家族・地域コミュニティを再生する。
- 当分の間、仮設の幼稚園・小中学校校舎への通学を確保しながら村内の教育施設の整備を行う。
- 除染の加速化とバイオマス・エネルギーの利用を進め、循環型の地域を目指す。
- 新たな雇用の確保と「いいたてブランド」の再生を目指す。

### 2/22 村議員と職員が発電施設を視察

村議員と職員が会津若松市内にある発電施設を視察しました。発電施設は、山林の未利用木材を原料とした木質チップを燃料に使用するバイオマス発電を行います（平成24年4月稼働予定）。村議員や職員は発電に必要な木材の量や運営計画などについて視察してきました。村では、このバイオマス発電の技術を山林の除染等で発生する除染物質の減量化などにつなげることができないかについて検討をしています。※今回視察した施設では汚染された木材は使用しません

2/26

### 沖縄での研修の報告会を開催

12月に実施された「沖縄でのまでの旅」の報告会が飯野学習センターで開催され、研修に参加した児童と保護者らが出席しました。この研修には村の小学6年生と避難により転校した子を含め42人が参加しました。研修は沖縄の歴史や文化、自然を体験することで命の大切さや平和の尊さを学び、美しい自然への感動を友だちと共有することを目的に行われました。会の冒頭、村長が「さまざまな経験は皆さんの成長のための肥やしになります。人にとつての肥やしを皆さんの中に入れていってほしいと思います」とあいさつしました。

い戦争を二度と起こしてはならないと思いました」「多くの人たちに助けられていることを感じた」など研修を通じて学んだことが発表されました。会の終わりに保護者を代表して青木弥生さん（大久保・外内）から「皆さんが元気に出発し、そして元気に帰ってきた姿に安心させられました」とあいさつがありました。研修で得られた成果が児童の成長の過程で活かされることを期待します。

報告では、沖縄での研修のようすをビデオで上映し、児童らが自分たちで決めたテーマについて、学習したことを班毎に発表しました。主な内容として「みにく



▲報告会のようす

## 子育て相談室

— お気軽にご相談ください —

### 飯館村に生きる

もうすぐ大震災と東京電力の原発事故から一年が経とうとしています。自宅を残して故郷を離れ、慣れない土地で暮らさざるを得ない精神的・物質的災難は飯館村の人たちには分からない苦痛であるに違いありません。しかしながら、飯館村は災害を乗り越えて再生に向かって創造の道を歩むことが求められています。これからどのような村をつくるのか、そのことを基本命題として、以前の仕事への復帰、雇用の創出、医療や福祉などの充実とともに、飯館村に生きる子どもたちの未来をつくる教育の振興が明確な課題です。避難している現在の学校の状態から、次にどのような学校を目指すのか、今このときこそ、飯館村の学校で学ぶ子どもたちの確保が可能な魅力ある学校づくりの検討が必要です。まずは現在の飯館村の幼・小・中学校の教育レベルの充実向上を図るとともに、将来を見据えて幼・小・中・高の一貫校をつくる、或いは中・高一貫校にして全国から生徒を募集する、などのこれまでは異なる学校の創造を視野に入れる必要があると考えます。飯館村の現在は、明治維新や戦後の復興時のような「新開拓（フロンティア）」のときであると思います。飯館村に生きる、その意思をもつ子どもたちのための学校を作る創意に満ちた思考と行動が飯館村の人たちに課せられています。試練を恵みに変える努力は大人の皆さんの子どもたちに対する責任です。

飯館中学校スクールカウンセラー  
臨床心理士  
海野 和夫

○ 教育相談は飯館中学校（☎024-566-3100、3118）へ電話でお申込みください。

1/29 地域的女性やお年寄りを元気に  
新春 佐須元気出る会を開催

長期化する避難生活の中で、それぞれの避難先から集まり交流することで地域の女性やお年寄りを元気にしようと、佐須元気会(菅野永徳代表発起人)が「佐須元気出る会」を伊達市上保原公民館で開催しました。佐須元気会は、避難生活を地域の交流を図ることでなんとか乗り切ろうと有志で自主的に立ちあげました。

今回の会には、地域のお年寄りなど約30人が集まり再会を喜びあいました。

また、村の保健師が相談会を開き、冬場の健康管理、閉じこもりの予防、認知症予防と対応などについて説明を行いました。昼食には愚真会による手打ちそばも振る舞われています。

参加者は「みんなと会えてよかった」「早く村



▲元気会のような様子

に帰りたくなった」「今回来なかった人がどうしているか気になる」などお互いを気づかいあっているようでした。

佐須元気会では、今後も定期的にこうした交流の場を設けて行きたいとしています。

2/7~2/26 県内5カ所で住民懇談会を開催

村は、福島市2カ所、伊達市、相馬市、川俣町の5カ所で復興施策の説明や村民との意見交換のための住民懇談会を開催しました。

村が開く懇談会は昨年10月から12月まで17カ所で開いたものに続き2回目の開催となります。

この懇談会には延べ388人の村民が参加し、各会場で村に意見や質問を投げかけました。

このうち、26日に県青少年会館で行われた懇談会では、参加した村民から除染の進捗状況や帰村の時期をどのように考えているのか等の質問に加え、「仮設住宅や公的宿舎だけでなく、借上げ住宅への避難者を対象にした自治会の立ちあげを早急に進めてほしい」「村の空間線量がテレビなどで著しく低い値で報道されていることについて、適切とは思えない」「(帰村するかどうか)アンケートを早急に実施するべきだ」「一次産業はあきらめて、農地を新エネルギー施設の設置などに移行させてはどうか」「クリアセンターの仮置き場の管理状況は適切か」といった要望や意見が次々に出されました。

これに対し村からは「自治会の立ちあげについては前向きに対応したい」「アンケートは来年度の早い時期に実施したい」「仮置き場については、日程を決めて見学できないか国と相談する」等の回答がされました。



▲懇談会のようす(相馬市)



▲懇談会のようす(福島市青少年会館)

2/8 飯館村機構改革審議会が  
2/28 開催されました

役場飯野出張所で飯館村行政機構改革審議会が行われ、役場組織の見直しについて意見が交わされました。

原子力災害対策、より適した組織づくりを進めるため、8日の審議会では村長が村議員、村民の代表、村職員で構成された審議会の委員に委嘱状を交付しました。

審議会には、村から①「生活支援対策課」及び「復興対策課」を新設し、「産業振興課」を廃止することについて②「教育課」と「生涯学習課」を統合再編し、「教育課」とすることについての2つが諮問されました。

諮問に対し、委員からは「除染係はモニタリングをするのか、除染全般を行うのか」「健康づくりについては検査体制を整備し、高校生について



▲答申は28日の審議終了後、村長に手渡されました

もしつかりとした対応をしてほしい」「村民が行政に期待することを踏まえ、対応する部署の仕事量に見合った人数を配置すべき」などの質問や意見がだされました。

また、28日の2回目の審議会では、1回目の議論の結果も踏まえ、さらに協議が行なわれ、最終的に2つの諮問事項に対し賛成する旨の答申がだされました。

この答申を受けて、村では3月の村議会定例会に条例改正案を提出し承認を求めると予定です。



すばらしい若者がいる村

今年の村の新成人に「晴着を」と全国に呼びかけてくれた方がおられることを11、12月号で紹介しました。

その方に成人式の折、会場でのスピーチをお願いしていました。

短時間の中で実に内容のあるいい話をしていただきました。

話の内容は次のようなものでした。

1つは、話し合いをしていて自分と違う考えがあっても相手の考えを肯定してから「でもこんなことも…」と自分の考えを話す、いい話し合い、いい人間関係ができます。

2つ目は、人に何か紹介され、それを果たした後は必ず紹介してくれた人に報告をしておくことが大切だと思えます。

そして3つ目は、お客さんを送る時、その方が見えなくなるまで見送ると相手に心が伝わりますよ、と。

このようなことを新成人に向けて贈つ

てくれたお話でした。

私に向けて話をしたのではないかと思ってしまう内容でしたので、私は小さくなって聞いていました。となりの副村長などは「これは新成人よりわれわれ職員も聞かなければならない話だ」との声を発していたぐらいです。その後、私は野田総理との懇談があり、すぐ中座してしまい、あとのことは分かりませんでした。

ところが、何日後、その方より電話がありました。

「新成人の何人かが『先生を見送ろう』と玄関に出てきて、手がちぎれんばかりに最後まで大きく手を振って見送ってくれました。すばらしい青年たちがおりますね。いい村になっていると思えました。それをお伝えしたくて、電話をいたしました」と。

私はその話を聞いて、あぶなく涙を見せるところでした。

村には素直ないい若者がたくさんいる。この若者たちがいる限り村の将来は大丈夫だろうと。彼らの為にもふるさとを復興させなければならぬと心に誓ったところでした。

新成人にすっきり教えられた避難生活の中での初成人式でした。

平成24年2月24日

飯館村長 菅野典雄

28日	27日	26日	22日	14日	13日	12日	10日	8日	2月7日	31日	30日	29日	1月28日
・農業委員会が村に建議を提出	・第2回飯館村行政機構改革審議会(福島市飯野町)	・までいな復興計画推進委員会(福島市飯野町)	・中高合同音楽鑑賞教室(伊達郡川俣町)	・飯館村住民懇談会(福島市)	・村議会原発災害対策特別委員会バイオマス発電所施設視察(会津若松市)	・飯館村住民懇談会(川俣町)	・村議会、村が東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う除染並びに復興等に関する要望書を内閣総理大臣らに提出(東京都)	・飯館村住民懇談会(相馬市)	・村県民税等申告相談開始(伊達市、相馬市、福島市飯野町)	・第1回飯館村行政機構改革審議会(福島市飯野町)	・飯館村住民懇談会(伊達市保原町)	・飯館村住民懇談会(福島市飯野町)	・松川第1仮設住宅内に飯館村直売所松川店がオープン ・絆つながる「ふくしまの春」に佐須「虎捕太鼓」、比曾「三匹獅子舞」出演 ・行政区長副区長会議(福島市飯野町) ・第3回除染事業に関する組織立ち上げ会議(福島市飯野町) ・村議会総務文教・産業厚生常任委員会所管調査(飯館村、福島市飯野町、松川町)



▲中高合同音楽鑑賞教室のようす



▲いいたて村民ふれあい集会のようす

## 2/28 村農業委員会が建議を提出

村農業委員会は、村に対する建議(要望)を飯野出張所で村長に手渡しました。建議の内容は次のとおりです。

- 除染前の空気中線量と土壌中の放射性物質について、きめ細かく実態調査を実施すること
  - 農業生産が可能となるよう農地や森林の除染作業を早急を実施し、除染後は農地全筆の土壌検査を実施すること
  - 農業者等への損害賠償については、東京電力だけでなく国の責任で迅速な支払いを実施し、賠償手続きの簡素化を図ること
  - 農業再開後、農業者の農業経営が安定するまでの長期的な支援システムを早急に構築すること
  - 原子力発電所事故の収束宣言を完全な収束まで撤回し、事故を一刻も早く国内外の知識を結集して収束させ、現在の原子炉を廃炉とすること
- 委員会は、要望の項目について村から、国、県、東京電力に働きかけてほしいと要望しました。



▲建議書を村長に手渡す農業委員

**編集後記**

震災からもうすぐ1年が過ぎようとしています▽昨年の今頃は地震が起きることなど知るはずもなく、飯館のふきのとうが食べたくて「早くでないかな」と心待ちにしていたことをふと思ひ出しました▽今年には雪が多く、また寒いのでふきのとうが芽を出すのも遅くなることでしよう▽ふきのとうが芽を出しても食べられないことが残念でなりません。

## ひとつのごき (1月21日から2月20日までに届け出のあったもの)

### 誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
高橋 優衣菜 ちゃん	裕仁・敦子	深谷

1月21日から2月20日まで

すくすくと育ててね

### 結婚おめでとう

氏名	出身地
高橋 秀平	長泥 福島市
高橋 美紀	福島市
佐藤 正薫	飯樋町 福島市
細川 政彦	上飯樋 二枚橋・須萱
佐藤 真里奈	

1月21日から2月20日まで

いつまでもお幸せに

### おくやみ

氏名	年齢	行政区
菅野 勝清	90	草野
鈴木 ハルノ	78	上飯樋
佐藤 義勝	86	前田
鹿山 眞明	74	深谷
星 文子	82	前田・八和木
西川 正直	68	宮内
高橋 英明	81	深谷
菅野 キミヨ	89	比曾
菅野 健藏	100	比曾
大久保 ケサイ	74	宮内
高橋 ツメ子	77	草野

1月21日から2月20日まで

ご冥福をお祈り申し上げます

